

あとがき

想像力、創造力、語彙力の貧困を要因とするさまざまな社会問題は、成長期において「児童文学の世界」に接することの少ない環境に起因すると指摘されています。

この「児童文学の世界」を知らないまま大人になってしまうことは、あまりにも“もったいない”との強い思いから、平成17年、有志により本会は発足し、さまざまな活動を積み上げてきました。平成18年に「子育てを楽しいものに一読書・読み聞かせを通して」という小冊子を刊行し、そして、愛川町が住民提案型協働事業を創設したことにより、この度、本書の刊行を実現することができました。

今さらブックリストの作成？と疑問視される方もいらっしゃるかもしれませんが。確かに、東京子ども図書館や近隣の公立図書館から既に刊行されていますし、カラー刷りで市販もされています。インターネットでも「絵本ナビ」などで情報は得られます。でも、パソコンはちょっとという人、どうすればブックリストを手にするのかと戸惑いを持たれている人は決して少なくはありません。

そこで私たちは、身近で気軽に手に取れるような、しかも、児童文学の各ジャンルにまたがって、作品の紹介だけでなく、絵本・昔話・読みもの等の特性や本の選び方、読み聞かせの心得など、著名人の説や所感を引用しながら、総合的な読書案内書の作成を目指したのです。

しかし、紙芝居や伝記、子守唄・わらべうたまで及ぶことはできませんでした。これらの中にも取り上げるべき作品がありますが、今回は、「読み聞かせてもらうこと」の体験を重視したことと、大人へと成長していく過程での「読書体験」の意味することの重さを考え、「絵本」と「読みもの」を中心に据え、編集してみました。

2年間という大変短い期間での作業でしたので、充分熟しきれていない点もありますが、すべて手作りのボランティアで挑んだ啓発資料作成班の並々なぬ努力に免じご容赦いただきたいと思えます。

願わくは、改訂続編版として、本書を活用してくださった皆様のご意見を踏まえ、さらには伝記等まで網羅したものを作成する機会に、いつの日か巡りあうことを期待してやみません。

終わりに、ご指導くださいました井河、佐藤両先生、推薦図書の応募等にご協力いただきました皆さまに心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。



平成27年3月 編集責任 愛川町子どもの読書を推進する会